

DXA 法による骨塩定量検査

I. 骨塩定量検査とは

骨粗鬆症を診断するために、骨中のカルシウムやマグネシウムなどのミネラル成分の量を測定する検査です。

II. DXA 法とは

Dual-Energy X-ray Absorptiometry の略で、2 種類のエネルギー X 線を測定部位に当てることにより骨成分を他の組織と区別して測定する方法です。ごくわずかな X 線を使用して簡便で正確に骨密度を測定することができます。

III. 測定部位は

腰椎と大腿骨近位部をそれぞれ 30 秒ほど測定します。重い物を持ったり、転倒したりすることで骨折しやすい部位を直接測ることで、高い精度の骨密度が分かります。また、腰椎と大腿骨近位部を測定することにより、他の部位の骨折リスクも評価することができます。検査結果は、当法人で作成した「骨粗鬆症治療手帳」に記載し、治療経過を把握しやすいようにお渡ししております。

IV. 検査における注意事項

1. X 線を使用しますので、妊娠中またはその可能性のある方には、本検査は行えません。
2. 検査への支障(下着の金属や、ズボンのファスナー、ボタンなど)がある場合は、検査着に着替えて頂く場合があります。

